今だ。やれ。

はなだりょう

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
今だ。やれ。

【Ｎコード】
Ｎ４４５７ＢＡ

【作者名】
はなだりょう

【あらすじ】
よしわかった。今だ。やれ。

考えない馬鹿に「考えろ馬鹿」って投げかけてみても「考えすぎだよ馬鹿」って返ってくるばかりで。

じゃあどうすれば「考えない馬鹿」に、考える事を促す事ができるのか。

ずっと考えてるんだ。

震災よりずっと前から。

震災によって起きた原発の問題もそうだけど、それよりずっと前から、日本の事だけじゃなくて、色々な問題についてずっと考えて、それをどう伝えればいいのかってまた考えて。

色んな角度からアプローチしてみるも、またエラー。

失敗。失敗。とどかない。

耳を塞いでいたい人たちに、無理矢理声をとどかせようとすると、嫌われて、拒絶されて、関係が破綻する。

お互い笑っていたいだけなのに。

笑っていたいから、笑顔をなくさないために伝えたいだけなのに。

このまま目を伏せていたら、いつか破綻するから、今向き合わなきゃいけないんだよって、伝える。

笑っていたいから。

笑っていたいから、相手は耳を塞いで去っていく。

悲しい決別だ。

そんなものを、何度も体験してきた。

だけど、ようやく少しだけ掴めてきた。

相手を否定して物事を動かそうとしても、相手は拒絶して離反するだけ。

「分かれよ馬鹿、これはこうでこうなんだよ」っていくら言っても、本当には何も変わらない。

変えたいなら、受け止める事が必要なんだ。

相手がなぜそれほどまでに頑なに「自分の声」を拒絶するのか。

なぜ彼らは「考える事」を頑なに拒否するのか。

彼らに与えられた資質、境遇、因果、なるべく多くを計算式に組み込んで、そうしたら自然と「解ってくれない馬鹿共」への憎しみは

薄らいでいく。

みんな、人それぞれ背負ってるものが違くて、何かを守るために意固地で、だから俺の言葉に耳を貸さない。

結果、何も守れなくて、みんな放射能の雨にやられて死ぬとしても、皆意固地に、変わろうとしない。

俺はもう見飽きたんだ。

「諦める自分の姿」を。

変えたいの。俺は変えたいの。

「喚きたい」んじゃないの。変えたいの。

だから、喚く事より、変えるために必要な事をやらなきゃ。

思いのまま喚くとすっきりするんだ。

心の中のモヤモヤした気持ちがちょっと晴れる。

誰かの歌の詞と同じ。

「義捐金とか、とりあえずお金出して、モヤモヤした気持ちを解消したいだけ」

おなじ。

「おい馬鹿共！現実はこうだ！真実はこっちだ！お前らいつまで目を閉じて耳を塞いでるんだ！この馬鹿共！なぜ解らない？なぜ考えない？お前らだけじゃなくて、お前らの子供たちの未来すら奪う選択をお前らは今してるんだ！この馬鹿共が！そうか、分からないか。馬鹿には何を言っても無駄か。お前らって本当に馬鹿だな」

叫んで、ちょっとすっきり。

義捐金ちょっと出してモヤモヤ解消するのと同じ。

ぶちまける事と、変えていく事は違う。

俺は変えるよ。

この国を変える。

人々の意識を変える。

それはさ、安易なお涙頂戴ドラマを演じて見せて訴えかけたり、ヒトラーみたいに革命的に人々の心を揺さぶったって駄目。

ひとつずつ。

無為に思えるほど小さな一歩ずつをとにかくひたすら積み重ねて、
変化を促す他無い。

１０００回失敗しても、１００１回挑むんだ。

ずっとそうやって挑んできた。

「変わらないはずのもの」を、ほんの数ミリずつ変えていくんだ。

俺たちがやらないで誰がやるの。

子供たちにこんな国、託せないだろ。

「今日は風向きがこうだから、あのあたりに放射能の雨が降ります」
とか、そんな国託したくないだろ。

もっと夢とか希望とか愛とか、ちょっと赤面して、でもガチで語れちゃう国を託してやりたいだろ。

だからさ、伝えるんだよ。

叫ぶのは怒りじゃない。

悲しみと虚しさと無力さの嘆きを伴って、それでもなお潰えず願う心だ。

俺にはそれがある。

だから叫ぶよ。

枯れるまで、何度でも。

ちょっとずつだ。

焦って3歩進んで転ぶヘマはもうしない。

人々を、少しでも笑える方角に導くんだ。

俺にならできる。

だって俺はいつだって誰かのヒーローだった。

ヒーローである俺は、世界を変えられる。

お前も変えてみせろ。

喚くな、変えろ。

世界を変えるんだ。

人々の過ちを正せ。許して、受け止めて、愛して、変えるんだ。

俺が欲しいのは、羨望的な愛でもなく、スタンディングオベーションでもない。

ただ、皆が誰かを本当に愛して、愛するものをちゃんと守って、笑う世界だ。

原子力の恐怖、きっと皆本当は心の奥底で感じてる。

なのに皆「しょうがないから」って隠して、上辺笑顔で、上辺いつもどおりの日常を演じて、今日も過ごしてる。

そうしてるうちに本当に恐怖感なんか薄らいで忘れちゃって、「いつもどおり」になってしまう。

でも原子力の脅威、資本主義の破綻、弱い誰かを常に犠牲にしてきた社会構造、人々が犯してきた過ち、目を伏せてきた過ちの「ツケ」は確実にそこに、ここに在る。

罪と罰はいつだってここに「在る」。

目をどれだけ背けても、消えはしない。

罰だけが、次の世代に浴びせられるんだ。

そんな日本を子供たちに胸張って託せないだろうがよ。

現実逃避の為の面白おかしな美談を書くことに興味は無い。

俺はいつだって現実に抗って変革を促すために歌を歌って文章を書いて人と対話してきた。

俺は誰よりも馬鹿だから、どんな馬鹿の気持ちも解るんだ。

なぜそうなのか。なぜ逃げちゃうのか、なぜ目を背けるのか。なぜ意固地になるのか。なぜ間違いをするのか。

俺も同じ馬鹿だから、わかる。

変えようよ。

子供たちの為に。

おれ、子供好きだもん。

目の前で子供たちが笑うと、その子供が全く見知らぬ誰かの子供でも、なんかつい俺も笑っちゃう。

血なんか繋がってなくても。

彼らが、俺たちの未来だからだ。

彼らに託せる未来を遺す。

夢の為に今日も明日も奔走する。

俺だって強い人間じゃないから、すぐまた折れて自暴自棄になって

逃げるよ。

支えてよ。叱ってよ。導いてよ。

ちゃんとまた笑うから。

「人類史上最悪の困難に遭遇した国」じゃなくて「人類史上最悪の困難を克服した国」にしちゃおうよ。

俺たちならできるって。

やらなきゃ絶対出来ない。

やればできるかもしれない。

やらない手はないよ。

さあ次のハードルまで全力でダッシュだ。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n4457ba/

今だ。やれ。

2012年1月11日23時50分発行